



平成 30 年 11 月 6 日

各 位

会 社 名 ヘリオス テクノ ホールディング株式会社
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 佐 藤 良 久
(コード番号 6927 東証第1部)
問合せ先 常務取締役統括管理部長 川 坂 陽 一
(T E L 0 7 9 - 2 6 3 - 9 5 0 0)

平成 31 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 の 連 結 業 績 予 想 と の 差 異 及 び 通 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 30 年 5 月 8 日 に 公 表 い た し ま し た 平 成 31 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平 成 30 年 4 月 1 日 ~ 平 成 30 年 9 月 30 日) の 連 結 業 績 予 想 と 本 日 公 表 の 実 績 に お いて、下 記 の と お り 差 異 が 生 じ ま し た の で お 知 ら せ い た し ま す。

また、最近の業績動向等を踏まえ、平成 31 年 3 月 期 通 期 (平 成 30 年 4 月 1 日 ~ 平 成 31 年 3 月 31 日) の 連 結 業 績 予 想 に つ き ま し て も、下 記 の と お り 修 正 い た し ま し た の で、併 せ て お 知 ら せ い た し ま す。

記

1. 平成 31 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 の 連 結 業 績 予 想 と 実 績 値 と の 差 異 (平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	12,700	900	900	600	33.17
実績値 (B)	12,478	1,571	1,575	1,110	61.35
増減額 (B-A)	△221	671	675	510	
増減率 (%)	△1.7	74.6	75.1	85.1	
(ご参考) (平成 30 年 3 月 期 第 2 四 半 期)	11,362	1,705	1,654	1,180	65.26

2. 平成 31 年 3 月 期 通 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 (平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,600	1,900	1,900	1,400	77.39
今回修正予想 (B)	24,300	2,300	2,300	1,630	90.06
増減額 (B-A)	△300	400	400	230	
増減率 (%)	△1.2	21.0	21.0	16.4	
(ご参考) (平成 30 年 3 月 期)	23,483	3,039	2,983	2,164	119.66

3. 差異及び修正の理由

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、ほぼ計画通りの売上となり、配向膜用フレキシ印刷装置及び露光装置用光源ユニット装置、また、人材サービス事業についても派遣者数の増加により、それぞれ、順調な売上で推移しました。利益面では、特定の案件で利益率向上となったほか、納入した装置のアフターコストの発生が抑えられたことにより、計画に対し営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益がそれぞれ前回発表予想を上回る結果となりました。

また、通期業績予想につきましては、上記第2四半期連結累計期間における利益面での増益の影響を受け、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がそれぞれ前回発表予想を上回る予定となっております。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記載は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上